

未来創造 IT 学科

教育の目的及び養成する人材像

未来創造 IT 学科の教育目的は、本校の教育目的に沿って、これからの高度情報化社会、高福祉化社会の技術的基盤として必要とされている、実社会における機器やシステムコンピュータを高度に応用するための知識と技術を蓄積し身につけ応用力を学ぶことにあります。

本学科では、「プログラミング分野」、「AI・ロボット工学分野」の専門的な基礎知識と実践的技術の修得を目指し、グローバル化した社会での急速な技術革新に対して、自らを進歩させ柔軟に対応できる幅広い知識と応用力、良き市民のリーダーの資質と英語コミュニケーション能力を養い、国際的にも活躍できるような人材を育成することです。

ディプロマ・ポリシー

未来創造 IT 学科では、本校の称号方針に従い、以下の能力を備えたと認められる者に専門士の称号を授与します。

『知識・理解』

プログラミングに関する幅広い基礎知識と「プログラミング」、「AI・ロボット工学」等に関する専門知識を併せ持ち、自ら考え自ら解決する力を身につけ、さらに現代社会における様々な課題、ニーズを柔軟に理解する能力を有する。

『汎用的技能』

プログラミング分野に関するソフトウェア技術を応用し、時代の多様なニーズに対して問題解決策を見出すことができる。

『態度・志向性』

情報技術者のモラルと使命を理解して、プログラミング分野における技術の発展に寄与し、社会に貢献することができる。

カリキュラム・ポリシー

未来創造 IT 学科が定めるディプロマ・ポリシーに基づき、以下に示す教育課程を編成し、実施します。

『教育課程・学修成果』

全体は、専門科目、一般教養科目を並列に配し、専門科目では、理論、実技実

験・演習分野科目、その上に卒業研究を配置する構成となっています。

初年次において、ものづくりに対する意欲向上を目的として、「プログラミング概論」を開講します。また、これに併行して「コンピュータセキュリティ」、「データベース概論」の専門知識を修得する為の科目に加え、「外国語コミュニケーションⅠ」、「就職活動リテラシー」等の科目を開講し、情報理工学分野の幅広い知識を身につけさせます。これらには、情報処理技術者試験を中心とする資格取得を念頭に置いた科目も含まれます。

その上で、各分野について、より深く学ぶ為の専門科目を2年次に設置します。また、科目の理解促進と実践的なスキル向上を目的として、実技科目である「AI・ロボットプログラミングⅡ」を開講します。このように、基礎から専門までを段階的かつ横断的に学べる科目および資格取得を意識した英語科目をバランスよく設置します。その集大成として、2年次には「卒業研究」を必修科目として開講し、これらの実践的教育を通して、新しい情報技術を創成する能力やリーダーシップを育成します。

『学修成果の評価方法』

本学科のディプロマ・ポリシーに示されている「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」に関して、科目修得時間数による分析評価、授業についてのアンケート等を用いた学生による自己評価により、学修成果の評価を行っていきます。その集計結果は、教員のFD活動等をとおして教育の質向上のためのPDCAサイクルにつなげています。

アドミッションポリシー

未来創造 IT 学科の教育上の目的及び養成する人材像を理解し、これらを達成するために自ら学ぶ意欲をもった人を求めます。

『求める学生像』

未来創造 IT 学科で定めている称号授与のために求められている能力を身に付けることが期待でき、基礎学力が十分にある人材。

『入学者に求める知識・技能・思考力・判断力・表現力・態度』

(1) 知識・技能

英語では、高校での英語の科目の履修を通して英語の文章理解力、表現力、コミュニケーション能力を身につけておくことが望ましい。

数学では、高校での数学の科目の履修を通して公式や計算方法を理解した上で、それらを応用できる能力を身に着けておくことが望ましい。

理科では、高校での理科（特に物理）の科目を選択し、個々の項目の内容を理解していることが望ましい。

情報では、「社会と情報」および「情報の科学」の科目を通して、ネットワーク知識および問題解決能力を理解していること。スキルとして、タッチタイピングを習得し、簡単な文書、表計算、プレゼンテーションソフトを使えることが望ましい。

国語及び社会は、理系の学問を学ぶ上で必要な文化的な知識を幅広く理解していることが望ましい。

(2) 思考力・判断力・表現力

物事を論理的に志向する力、物事の良し悪しが判断できる力、自分の考えを相手に伝えられる表現力があることが望ましい。

(3) 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

他人とグループワークを行なう際などに、相手に自分の考えを伝え、また相手の考えを聞き、ともに1つの目標に協力しようとする態度があることが望ましい。